

「脳科学とリハビリテーション」投稿規定

(2017年7月10日改訂, Submission_Guideline.pdf)

投稿資格と費用および著作権の譲渡

- 1) 中枢神経系とリハビリテーションに関連した研究を主体とした論文を受け付ける。ただし、未公開論文で他誌に掲載予定のないものに限る。
- 2) 著者の会員資格の有無は問わない。
- 3) 投稿料、審査料、掲載料などの費用は原則としてかからない。ただし、カラー原稿がある場合は著者負担とする。著者には掲載誌1部と別刷30部を進呈する。別刷の追加が必要な場合は著者の実費負担とする。
- 4) 本誌掲載後の全ての論文と資料の著作権は「脳機能とリハビリテーション研究会」に帰属する。著者は本研究会へ掲載論文の複製および第三者への転載許諾の権利を譲渡するものとする。

投稿・査読・校正の手続き

- 1) 受け付ける記事の種類は、研究報告、短報、症例報告、経験、総説、レクチャー、紹介とし、論文の文字数・図表数は下記を目安とし、執筆要領に従って作成すること。

研究報告・総説・レクチャー：本文14,000字以内（文献・図表の説明を除く）、図表6個以内
 症例報告・短報・紹介・経験：本文10,000字以内（文献・図表の説明を除く）、図表4個以内

種 類	概 要	査読
研究報告	著者の研究成果を記述した原著論文。明確な研究意図、目的、方法および結果、結果を踏まえた考察と結論を、論理的かつ客観的に論述したもの。	あり
短 報	将来的に『研究報告』を想定し、早期公表を意図して簡明に記述したもの。	あり
症例報告	単一または少数の患者を対象にした症状や治療について、必要な情報を過不足なく示し、これまでの知見との関係を論理的に記述したもの。	あり
経 験	臨床所見の蓄積を目的とし、『症例報告』のような精密な検討は行っていないが、「Aを損傷した患者がBという症状を呈した」、「Cを損傷した患者にDというアプローチを行った結果Eになった」など、臨床経験を文章化したもの。	なし
総 説	ある主題に関して学術論文を網羅し客観的に解説したもの。これまでの経緯や、現状分析、将来展望などが明記されており、最新の知見や問題点も含めて総括されているもの。基本的に編集部の依頼によるが一般投稿も受け付ける。	あり
レクチャー	編集部の依頼により、ある主題に関して教育的な観点から解説したもの。	なし
紹 介	近年報告された知見、介入方法、解析技術などについて、利益相反の無い立場から簡明な記述で紹介したもの。	なし

- 2) 投稿された論文のうち「研究報告」, 「短報」, 「症例報告」, 「総説」は, 編集部により選定された研究者による査読が行われる。査読のない「経験」「レクチャー」「紹介」も含め, 編集部による修正案が提示されることもある。
- 3) 最終的な掲載可否と掲載巻号については, 編集部が決定する。
- 4) 原稿の一式は「脳科学とリハビリテーション編集部」宛 (editor@noukinou.main.jp) にメール添付で送信すること。添付ファイルの容量が重くメールが送れない場合は分割して送ること。
- 5) 原稿一式の内訳
 - 研究報告, 短報, 症例報告 (投稿者の情報を伏せて査読される)
 - ・添え状 1部 (カバーレター)
 - ・正原稿 2部 (Word形式の版とPDF化した版, 各1部)
 - ・副原稿 1部 (正原稿から著者名・部署名・倫理審査委員会名などの, 投稿者を推定し得る情報を除いてPDF化した版)
 - ・図表 各1部
 - ・返信状 1部 (再投稿時: 査読者からの質問・指摘に対する返信がある場合)
 - 総説, 紹介, 経験, レクチャー
 - ・添え状 1部 (カバーレター)
 - ・正原稿 2部 (Word形式の版とPDF化した版, 各1部)
 - ・図表 各1部
 - ・返信状 1部 (再投稿時: 査読者からの質問・指摘に対する返信がある場合)
- 6) 投稿原稿一式のコピーは必ず手元に保存しておくこと。
- 7) 言語は日本語または英語とする。
- 8) 編集部とのE-mailのやりとりは原則として責任著者が行う。初回投稿時に編集部から送られる返信メールの題名に原稿番号 (JRN-○) が付与されるので, 以降の編集部とのやりとりでは, 必ずその原稿番号をメールの題名に記載すること。
- 9) 掲載決定後の印刷に際し, 著者校正は原則として1回のみ行うものとする。その際, 文章内容および図表の変更は認めない。また, 編集部の責任において字句を訂正することがある。

参考資料 (必要に応じて下記を参考にすること)

石井大典. 論文の書き方と投稿方法. 脳科学とリハビリテーション. 2015; 15: 1-4.
(<http://noukinou.main.jp/kitei/> からダウンロード可能: Ishii_2015JRN.pdf)

原稿送付, 問合せ先

脳科学とリハビリテーション編集部, E-mail: editor@noukinou.main.jp

「脳科学とリハビリテーション」執筆要領

(2017年7月10日改訂, Manuscript_Preparation.pdf)

原稿・文章・図表の基本形式

- 1) 原稿は本誌指定の様式 (<http://noukinou.main.jp/kitei/> からダウンロード可能: JRN_Format.docx) を用いるのが望ましいが、Microsoft Word形式でA4版縦の1段組、上下30 mm、左右20 mm以上の余白があれば良い。ただし全頁において、右下部に「頁数 / 全頁数」を、左余白部に行番号（頁ごとに1から振り直す）を記入すること。
- 2) 文章の行間は1行とし、第一段落も含め段落の初めは1文字分下げて書き始める。句読点ではなくカンマ・ピリオドで記述すること。
- 3) 原則として、日本語フォントはMS明朝などの明朝体、半角英数文字のフォントはTimes New RomanやCenturyとする。図中の文字はゴシック体、ArialやHelveticaなどが望ましい。
- 4) 文章のフォントサイズは12ポイント以上とする。図中の文字のフォントサイズは、図が掲載された時のサイズを想定し、小さくなりすぎないように配慮すること。
- 5) 原則として本文は全て黒字とする。ただし、修正稿を投稿する際には、修正箇所を青字や赤字で表示するなど、査読者や編集部に分かりやすく伝えるよう工夫すること。
- 6) 数字は算用数字を半角英数文字で記載する。単位は国際単位系やCGS単位系に準拠し、長さはm, cm, mm、体積はdl, ml、重さはkg, g、時間はs, ms、温度は℃などを用いること。
- 7) 図表は原稿に貼付せず独立したファイルとして作成し、ファイル名を「図1」、「表1」のような図表番号の分かる名前にすること。
- 8) 図表は白黒（グレースケール）で、ファイルサイズが各2 MB以下になるように作成すること。図はTiffまたはPDF形式が望ましい。表はMicrosoft Excelなど、編集可能な形式が望ましい。

原稿の構成

- 1) 論文原稿は、ひとつのファイル（Microsoft Word形式）内に「タイトル頁」、「著者頁」、「要旨」、「本文」、「参考文献」、および、「図の表題と説明文」（図表が無ければ不要）で構成される。

タイトル頁

- 2) 論文タイトル、希望する記事の種類、キーワード（5個以内）、本文の総文字数（参考文献・図の表題と説明文を含まない）、図表数を記載すること。

著者頁

- 3) 著者氏名と所属、責任著者の氏名、所属と住所、電話番号、E-mailアドレスを記載すること。

要旨

- 4) 背景・目的・方法・結果・結論を600文字以内で簡潔に記載すること。

本文

- 5) 研究報告・短報・症例報告は「1. 背景と目的」「2. 対象と方法」「3. 結果」「4. 考察」「5. 結論」で構成されるが、見出し文字を改変しても良い。その他の記事では自由に設定して良い。
- 6) 見出しを階層化する際は「1.1., 1.2., ...」「1.1.1, 1.1.2, ...」とすることが望ましい。
- 7) 機器名は「一般名（商品名, 会社名)」、 「一般名（商品名, 会社名, 会社所在地, 国名)」、 または「商品名（会社名, 会社所在地, 国名)」で表記すること。
例 1. 筋電図・誘発電位検査装置（ニューロパック X1, 日本光電）
例 2. 経頭蓋直流電気刺激装置（DC-Stimulator Plus, NeuroConn, Ilmenau, Germany）
例 3. MATLAB 2016a（Mathworks, Natick, USA）
- 8) 略語を用いる場合は標準的な略語のみを用い、初出時にフルスペルまたは和訳も併記すること。
例 1. MRI（magnetic resonance imaging）
例 2. functional near-infrared spectroscopy（fNIRS, 機能的近赤外分光法）
- 9) 研究倫理について
ヘルシンキ宣言（以後の改正や補足を含む）に基づき、対象者の保護には十分に留意し、説明と同意などの倫理的な配慮に関する記述を明記すること。特に、症例の記述においては、個人情報保護のため、対象者の匿名性については最大限に配慮すること。
- 10) 本文中で文献を引用する場合は、引用箇所で角括弧内に文献番号を数字で記載すること。
例「中川ら[1]によると、...」、 「～という説もある[2,3].」、 「～と示されている[2-5,8,9].」

参考文献

11) 表記ルール

- 記載順序は本文の引用順で表記する。
- 著者が7名以上の場合は筆頭から6名を「,」で区切り「他」（和文）, 「et al.」（欧文）とする。
- 論文や書籍・章タイトルに副題がある場合は「-」または「:」で続ける。
- 英文誌の略名はMedline (<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/nlmcatalog/journals>) に従う。和文誌名は略さない。
- 頁が複数の場合は「初頁-終頁」とし、重複している位の数字がある場合にはその記載を省略する（例：172~178頁の場合「172-8」）。
- 著書を引用する場合に、一冊全てを引用とせず、必ず引用した章などの頁を記載する。
- 採用が決定している未掲載論文（巻・号などが決まっていない状態の論文）の場合は「西暦~引用頁」の代わりに「in press」と記載する。
- 投稿中の論文や学会抄録は参考文献として認めない。

12) 引用例：雑誌

著者名. 論文タイトル. 雑誌名. 西暦発行年; 巻数 (号数) : 引用頁.

1. Shimoda N, Takeda K, Imai I, Kaneko J, Kato H. Cerebral laterality differences in handedness: A mental rotation study with NIRS. *Neurosci Lett*. 2008; 430(1): 43-7.
2. 高杉潤, 沼田憲治, 松澤大輔, 小出歩, 阿部光, 村山尊司, 他. 体性感覚障害に対するミラーセラピーの予備的研究 - 体性感覚脱失が一過性に改善した被殻出血 2 例の検討. *脳科学とリハビリテーション*. 2008; 9: 29-34.

3. Takahashi M, Takeda K, Otaka Y, Osu R, Hanakawa T, Gouko M, et al. Event related desynchronization-modulated functional electrical stimulation system for stroke rehabilitation: A feasibility study. J Neuroeng Rehabil. 2012; 9: 56.

13) 引用例：単行本

著者名．書籍名．版数．発行地：出版社名，西暦発行年．p. 引用頁．

4. 山鳥重. 神経心理学入門. 東京: 医学書院; 1985. p. 133-7.
5. Moore BCJ. An Introduction to the Psychology of Hearing. 6th ed. Leiden: BRILL; 1985. p. 133-68.

14) 引用例：編集書籍の一部

著者名．章タイトル．編者名．書籍名．版数．発行地：出版社名；西暦発行年，p. 引用頁．

6. Zifkin BG, Cracco RQ. An Orderly Approach to the Abnormal Electroencephalogram. In: Ebersole JS, Pedley TA, editors. Current Practice of Clinical Electroencephalography. 3rd ed. Philadelphia: Lippincott Williams & Wilkins; 2003. p. 288-302.
7. 林田征起, 丹羽真一. 選択的注意と注意関連電位. 丹羽真一, 鶴紀子 (編). 事象関連電位: 事象関連電位と神経情報科学の発展. 東京: 新興医学出版社; 1997. p. 34-50.

15) 引用例：ウェブサイト

著者名．タイトル．サイト名．発行元 [cited アクセス日時 (西暦 月 日)]. Available from: URL

8. Korner-Bitensky N, Elissa Sitcoff E. MINI-MENTAL STATE EXAMINATION (MMSE). STROKE ENGINE. Canadian Partnership for Stroke Recovery [cited 2017 June 12]. Available from: <http://www.strokengine.ca/assess/mmse/>
9. SIST 08学術論文の執筆と構成. 科学技術情報流通技術基準. 科学技術振興機構 [cited 2017 June 12]. Available from: http://jipsti.jst.go.jp/sist/handbook/sist08_2010/main.htm

図の表題と説明文

- 16) 参考文献の文末に頁を新たにして図の表題と説明文の項を作成し，図の番号を付して説明文を記載する．他の著作物を転載する場合は，あらかじめ著作権者より転載の許諾を得ること．
- 17) 表の場合は，表中にタイトルや語句の説明などを記載すること．
- 18) 図表は1個であっても「図1」「表1」のように番号を振り，本文中で必ず言及されていること．

参考資料（必要に応じて下記を参考にすること）

武田湖太郎, 石井大典. 論文を書くときの留意点. 脳科学とリハビリテーション. 2017; 17: 1-8.
(<http://noukinou.main.jp/kitei/> からダウンロード可能: Takeda_2017JRN.pdf)